

保健室だより

平成27年8月発行
大正大学 保健室

「合法ハーブ」等と称して販売される薬物（いわゆる脱法ドラッグ）を吸引し、呼吸困難を起こしたり、死亡したりする事件が全国で相次いで発生しています。「危険ドラッグ」は、あたかも身体に影響がなく、安全であるかのように誤解されていますが、大麻や麻薬、覚醒剤などと同じ成分が含まれており、大変危険で違法なドラッグです。正しい知識を身につけましょう。

危険ドラッグとは

危険ドラッグの、本当の怖さを知っていますか？

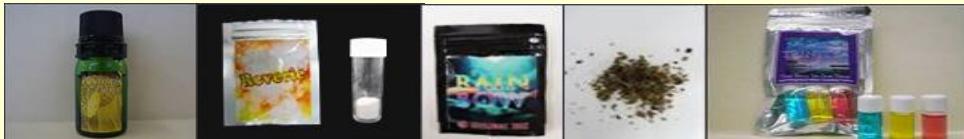
危険ドラッグには、既に規制されている麻薬や覚醒剤の化学構造を少しだけ変えた物質が含まれており、身体への影響は麻薬や覚醒剤と変わりません。



麻薬や覚醒剤の化学構造を
少し変えただけ！

麻薬・覚醒剤より
危険な場合も！！

違法性を隠すため、「お香」「バスソルト」「ハーブ」「アロマ」などと商品名が偽装されています。色や形状も様々で、粉末・液体・乾燥植物など、見た目ではわからないように巧妙に作られています。デザインされたパッケージやカラフルな液体は、危険な薬物に見えないため、かっこいいという印象を持ってしまいますが中身は恐ろしい薬物です。「合法」と書かれても、指定薬物が含まれていれば、所持しているだけで犯罪です。



身体に与える悪影響とは

危険ドラッグの成分や含有量は商品によってまちまちであり、「吐いたり」「意識を失ったり」「暴れたり」など様々な健康被害が報告されています。最悪の場合は死に至ってしまうこともあります。

救急搬送されても、詳しい成分がわからないため、医療機関で適切な治療ができないこともあります。大変危険です。



「1回だけなら…」のつもりが恐ろしい依存症に



依存と耐性の悪循環

危険ドラッグ
たった一回の使用で…



危険ドラッグを使用すると、高揚感が得られるといわれています。しかしこれは一次的なもので、作用が切れると耐えられないほどの絶望感や不安感に襲われます。それから逃れるために、また使用してしまい（依存）、次第に自分の意志では止められなくなってしまいます。また、繰り返し使用していると、一回に使う量がどんどん増えていきます（耐性）。

危険ドラッグが原因となった事件や事故の例

- 池袋駅周辺で脱法ハーブを吸った男の乗用車が暴走、歩行者一人死亡、七人けがを負わせた（2014年6月）
- 脱法ハーブを吸って車を運転し、車やバイクにぶつかり、二人けがを負わせた（2014年7月）
- 脱法ハーブを吸って小学校に乱入、女子児童を追いかけまわして一人けがをさせた（2012年10月）
- 脱法ハーブを吸った20代女性が意識不明の状態で見つかり、その後死亡した（2012年11月）



8月のレシピ

～夏野菜とハムのパスタ～



【材料 4人分】

パスタ300g、にんにく1かけ、茄子2本、トマト1個、インゲン80g、玉ねぎ1個、ハム100g、水50cc、コンソメ2つ、塩・コショウ少々、バジルか紫蘇は好みで。

※旬の夏野菜、茄子、トマト、インゲンをたっぷり使ったパスタです。味付けはコンソメなので、シンプルでさっぱりです。

<http://www.recipe-time.com/recipe/6965>

出典：政府広報オンラインHP「危険ドラッグの、本当の怖さ知っていますか」/東京都福祉保健局健康安全部薬務課

HP「みんなで知ろう危険ドラッグより/レシピタイムHP